

補助事業番号 20-01-088

補助事業名 平成20年度国際映画祭の開催補助事業

補助事業者名 財団法人 広島市文化財団

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

ア. 国境や言語を超えた人類共通のメディアであるアニメーション芸術を通じ、人類が平和に生きることを追求する ASIFA（国際アニメーションフィルム協会）の心と、世界の恒久平和を願うヒロシマの心が一つになって行う、「愛と平和」を希求する祭典とする。

イ. 国内外から参加する多くの人々が世界最初の被爆地広島で被爆の実相に触れることにより、人間相互の尊厳を理解するとともに、平和意識の高揚と友愛・連帯の輪の広がりを願い、世界平和の実現に寄与する。

ウ. 世界の著名なアニメーション作家が一堂に会し、作家と参加者が集い、ふれあいながら、傑出した作品を鑑賞することにより、世界のアニメーション芸術の普及・発展及び映像文化の振興・映画産業の発展に寄与する。

### (2) 大会テーマ

愛と平和 (LOVE&PEACE)

### (3) 開催期間

平成20年8月7日(木)から8月11日(月)までの5日間

### (4) 開催場所

アステールプラザ（広島市中区加古町）

### (5) 主催等

主催 広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会(会長＝広島市長、委員長＝(財)広島市文化財団理事長)、広島市、(財)広島市文化財団

共催 国際アニメーションフィルム協会 (ASIFA) 日本支部

公認 国際アニメーションフィルム協会

協力 日本アニメーション協会

支援 平成20年度文化庁国内映画祭支援

助成 財団法人 JKA、独立行政法人国際交流基金

協賛 フィンランド大使館、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ国立映画制作庁ほか

後援 外務省、経済産業省、広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会、(財)広島平和文化センター、中国経済連合会、広島県商工会議所連合会、広島県経営者協会、広島経済同友会、(社)広島青年会議所、(社)映像文化製作者連盟、中間法人日本動画協会、(社)日本映画テレビ技術協会、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、日本経済新聞社広島支局、産経新聞社中・四国総局、共同通信社、時事通信社広島支社、NHK 広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FM ちゅーピー76.6MHz、ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナショナルジャパン、アニマックスブロードキャスト・ジャパン、ふれあいチャンネル、ひろしまケーブルテレビ、広島市 PTA 協議会

協賛企業 176 社

(6) 国際名誉会長

ポール・ドリエセン（オランダ）

1940年、ナイメーヘン（オランダ）生まれ。1967年、ビートルズファンを熱狂させたジョージ・ダニングの作品「イエロー・サブマリン」の制作に協力したのをはじめ、多数の作品を制作。

当映画祭との関わりは深く、第2回大会で国際審査委員を務めたほか、コンペティション、特別プログラムでの上映作品が多数ある。なかでも、第8回の優秀賞受賞作品「三人のおとめ」は、1999年のアカデミー賞アニメーション短編部門にノミネートされた。

(7) プログラム概要

ア. コンペティション

内容

世界から応募のあった作品のなかから、平成20年5月に実施した国際選考委員（5か国5人）による審査で選考された作品を、コンペティション参加作品としてフェスティバル開催期間中の8月7日から8月10日までの4日間に分けて公開上映し、国際審査委員（6か国6人）による審査で、延べ18作品にグランプリ、ヒロシマ賞など8賞を授与した。

応募作品数

1,656作品（56か国・地域）

国際選考委員（5か国5人）

委員長 レイ・コサリン（アメリカ。アニメーション作家・監督）

委員 ラオ・ヘイドメッツ（エストニア。アニメーション作家・監督）

エレナ・チェルノヴァ（ロシア。アニメーション作家・監督）

ソフィー・ロッジ（イギリス。アニメーション作家）

西本 企良（日本。アニメーション作家・大学教授）

参加作品数（選考審査通過作品）

76作品

国際審査委員（6か国6人）

委員長 ピョートル・ドゥマラ（ポーランド。アニメーション作家・監督、イラストレーター）

委員 マルユット・リンミネン（フィンランド。アニメーション監督）

ジュヌヴィエヴ・ジェオルジェスク・オブレチェア（ルーマニア。グラフィック・アーティスト、映画制作者）

ラストコ・チーリッチ（セルビア。イラストレーター、アニメーション作家、大学教授）

デーヴィッド・アーリッヒ（アメリカ。アニメーション作家、大学教授）

杉井 ギサブロー（日本。アニメーション映画監督、大学教授）

審査結果

グランプリ（賞金100万円） 1点

ヒロシマ賞（賞金100万円） 1点

デビュー賞（賞金50万円） 1点

ルネ・ラルー賞（賞金2,000米ドル） 1点

観客賞（賞金10万円） 1点

- 国際審査委員特別賞 6点  
 優秀賞 6点  
 グランプリ「カフカ 田舎医者」(山村 浩二：日本)  
 ヒロシマ賞「つみきのいえ」(加藤 久仁生：日本)  
 デビュー賞「ザ・ハート・イズ・ア・メトロノーム」(ジャン・シャルル・ム  
 ボッティ・マロロ：フランス)  
 木下蓮三賞「ブラックファスト」(イザベラ・プルシンスカ：ドイツ)  
 ルネ・ラルー賞「ア・リトル・ファーザー」(フランソワ・マルク・バイエ：  
 フランス)  
 観客賞 「つみきのいえ」(加藤 久仁生：日本)  
 国際審査委員特別賞「マダム・トウトゥリープトゥリ」(クリス・ラヴィス、  
 マチェック・シェバウスキ：カナダ) 他5作品  
 優秀賞 「ジョン・アンド・カレン」(マシュー・ウォーカー：スイス) 他  
 5作品

#### 表彰式

フェスティバルの最終日の8月11日、広島国際アニメーションフェスティ  
 バル実行委員会委員長である広島市長や、国際名誉会長、国際審査委員、出品  
 作品監督等が出席して開催し、上記各受賞を顕彰した。

#### 来場者数

5,330人(表彰式を含む)

#### イ. 特別プログラム

##### 内容

次の作品の上映のほか、世界の秀作アニメーション映画特集、世界の学生が制  
 したアニメーション映画特集、現代日本のアニメーション映画特集など、全52  
 プログラムで長編、短編合わせて607作品を上映。

- ①シンデレラ(ディズニー映画、1950年制作)
- ②グラゴーズ・ゲスト(ディズニー映画、2008年制作、日本初公開)
- ③プレスト(ピクサー映画、2008年制作、日本初公開)
- ④ファインディング・ニモ(ディズニー・ピクサー共同制作、2004年アカデ  
 ミー賞受賞)
- ⑤鉄腕アトム、ジャングル大帝、おんぼろフィルムほか故手塚治虫氏の10作品

#### 来場者数

13,280人

#### ウ. サブイベント

子どもを対象としたアニメーション制作ワークショップ、プロを目指す若手の  
 自作の発表など次の11イベントを併催。

##### ①映像メディアゾーン

##### 内容

アニメーションなどメディア表現の創作活動の支援、振興等を行う団体、学  
 校、企業等を対象に、活動を紹介する機会を提供。

#### 出展者数

1団体(文化メディア芸術祭事務局)

#### 来場者数

5,403人(下記②「エデュケーショナル・フィルム・マーケット」と同一会場

で実施)

②エデュケーショナル・フィルム・マーケット

内容：アニメーション教育を実施する大学等の学生の作品や活動を展示・紹介し、アニメーション技術の向上を図るとともに、学校のPR、リクルート活動、情報交換・交流を行う場を提供。

出展校：東京藝術大学大学院、武蔵野美術大学、東京デザイナー学院、東京工芸大学、女子美術大学、東京造形大学、中京大学、大阪芸術大学、大阪デザイナー専門学校、京都精華大学、京都造形芸術大学、神戸芸術工科大学、広島市立大学、穴吹デザイン専門学校、比治山大学短期大学部、広島国際学院大学、九州大学（17学校、19ブース）

来場者数 5,403人（上記①「映像メディアゾーン」と同一会場で実施）

③フレーム・イン

内容：プロを目指す若者たちのための発表やインフォメーションの場。ゲストによる特別セミナーも開催。

企画数 42件

来場者数 775人

④ネクサス・ポイント

内容：プロのための作品の持ち込み上映やプレゼンテーションを通じたビジネス交流の場。

企画数 13件

来場者数 634人

⑤マッキントッシュ・アニメーション・メイキングワールド

内容：マッキントッシュのパソコンを使用したアニメーション制作のワークショップ。

来場者数 611人

⑥キッズ・クリップ

内容：子どもを対象としたアニメーション制作ワークショップ

来場者数 570人

⑦オッター・アルダー展

内容：オッター・アルダー氏の作品「パピロシー」などを展示。

来場者数 818人

⑧デーヴィッド・アーリッヒ展

内容：今大会の国際審査委員であるデーヴィッド・アーリッヒ氏のアニメーションの上映や立体作品などを展示。

⑨ラストコ・チーリッチ展

内容：今大会の国際審査委員であるラストコ・チーリッチ氏のイラスト作品などを展示。

来場者数 984人

⑩立体映像の展示

内容：3Dのアニメーション作品を上映。

来場者数 1,454人

⑪フィンランド展

内容：フィンランドのアニメーションを上映するとともにパネル展示によりフィンランドを紹介。

来場者数 1,234人  
エ. 入場者数 延べ31,820人

2. 予想される事業実施効果

国際アニメーションフィルム協会（ASIFA）が公認するアジアで唯一の国際映画祭として、世界各国から多くの優れた作品を得て、アジア地域のアニメーションの普及、発展に寄与するとともに、日本のアニメーションのより一層の発展、向上が図られるものとする。さらに、今後の日本におけるコンテンツ産業の発展を促進し、映像文化の振興、映画産業の発展にも貢献できるものとする。

3. 本事業により作成した印刷物等

公式ガイドブック 3,000部  
当日プログラム 20,000部  
開催結果報告書 1,000部

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：財団法人広島市文化財団（ヒロシマシブンカザイダン）

住所：730-0812

広島市中区加古町4番17号

代表者：理事長 酒井 義法（サカイ ヨシノリ）

担当部署：文化事業部事業課（ブンカジギョウブジギョウカ）

担当者名：主事 原田 茂（ハラダ シゲル）

電話番号：082-245-0245

F A X：082-245-0246

E-mail：hiroanim@hiroanim.org

U R L：<http://hiroanim.org/>